

◆敬語表現とは◆  
話し手（書き手）が、話題の人物や聞き手（読み手）に対して敬意を表すためのもの。敬語は、だれに敬意を表すかによって、「尊敬語」「謙讓語」「丁寧語」の三種類に分けられる。

◆敬語の種類◆

①尊敬語…動作をする人（動作主）への敬意を表す。

例 仁和の帝、人に若菜給ひける御歌。（古今）  
仁和の帝が、人に若菜をお与えになった時のお歌。

↓「与える」という動作をする「仁和の帝」に対する敬意。

②謙讓語…動作を受ける人（動作の相手）への敬意を表す。

例 二条の后につかうまつる男ありけり。（伊勢）  
二条の后にお仕える男がいた。

↓「仕える」という動作を受ける「二条の后」に対する敬意。

③丁寧語…聞き手や読み手への敬意を表す。

例 明くるまで月見歩くことはべりしに、（徒然）  
夜が明くるまで月を見て歩くことがありました。

↓地の文なので、読み手に対する敬意。

◆本動詞と補助動詞◆

敬語には、「本動詞」「補助動詞」の区別がある。

\*本動詞…具体的な動詞としての意味と敬意の、両方を表す。

例 使ひに袂たまへりけり。（伊勢）  
使いに袂美をお与えになった。

\*補助動詞…主に活用語の連用形につき、敬意だけを表す。

例 かぐや姫は、たいそうひどく泣きたまふ。（竹取）  
↓具体的な動作ではなく、敬意を表すのみ。

◆とくに注意したい敬語◆

\*二重敬語（最高敬語）…「尊敬語＋尊敬語」の形で、非常に高い敬意を表す。

例 猫を御ふところに入れさせたまひて。（枕）  
（帝は）猫をふところに入れられた。

↓地の文なので、作者から「帝」への敬意。

\*二方面への敬意…「謙讓語＋尊敬語」の形で、動作を受ける人と動作をする人  
に、同時に敬意を表す。

例 月日経て、若宮参りたまひぬ。（源氏）  
月日が経って、若宮が（内裏に）参りなされた。  
↓地の文なので、「参り」（謙讓の本動詞）「たまひ」（尊敬の補助動詞）と  
せに作者からの敬意。

「参り」は、「参上する」という動作を受ける「帝」への敬意。  
「たまひ」は、「参上する」という動作をする「若宮」への敬意。

誰からの、誰に対する敬意？

敬語の問題では、「誰からの、誰に対する敬意か」を問われることが多い。次のルールを覚えておこう。

◆誰から…敬語の種類に関係なく、その敬語を用いた人。

- ・会話文…**会話の話し手**から
- ・手紙文…**手紙の書き手**から
- ・地の文…**文章の作者**（＝**書き手**）から

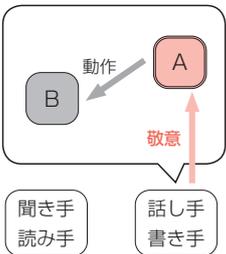
◆誰に対する…敬語の種類によって、分かれる。

- ・尊敬語…**動作をする人**に対する
- ・謙讓語…**動作を受ける人**に対する
- ・丁寧語…
  - （会話文）**聞き手**に対する
  - （手紙文）**読み手**に対する
  - （地の文）**文章の読み手**（＝**読者**）に対する

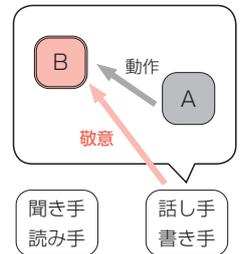
図で理解しよう！

A⇨動作をする人  
B⇨動作を受ける人

①尊敬語 動作をする人に対する敬意



②謙讓語 動作を受ける人に対する敬意



③丁寧語 聞き手・読み手に敬意を表す

